

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

8月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告55件(前月比1.0、前年同月比55.0)でした。前月に引き続き二桁の報告で、例年よりも高めに推移しています。人吉地区に多いようです。年齢的には各年齢層から万遍なく報告されています。

小児科定点

（全体傾向）

報告数4,398件(前月比 0.85, 前年同月比 1.66)で、前月よりも減少しました。感染性胃腸炎1,104件、手足口病1,041件、ヘルパンギーナ767件が大きく占めています。前月ピークを迎えた手足口病・ヘルパンギーナが減少した一方、RSウイルス感染症と咽頭結膜熱は大幅に増加しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数519件(前月比8.0、前年同月比3.2)でした。例年よりも早く増加しています。大半が2歳未満の乳幼児であり、菊池、有明、八代、熊本を中心として県下ほぼ全域から報告がありますので、今後の動向に注意が必要です。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数201件(前月比1.9、前年同月比3.7)でした。5月以降例年よりも多い件数で推移していましたが、8月はさらに増加しています。過去2年の同月に比し約4倍の件数であり、今後の動向に注意が必要だと思われます。八代地区からの報告が目立ちます。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数214件(前月比0.8、前年同月比1.2)でした。前月からの減少傾向が続いて、例年並みの推移です。菊池地区からの報告が続いています。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,104件(前月比0.9、前年同月比1.1)でした。前月からの減少傾向が続いています。有明・八代・菊池、次いで宇城・山鹿からの報告が多いようです。
5. 水痘 : 報告数60件(前月比0.9、前年同月比1.3)でした。1月から減少傾向が続いています。前月報告の多かった菊池地区は減少し、八代地区が増加しています。平成27・28年では秋季から増加していますので、今後注意が必要です。
6. 手足口病 : 報告数1,041件(前月比0.5、前年同月比10.3)でした。7月をピークとして8月は減少に転じ、例年並みの推移のようです。件数の4割を占める1歳児を中心に乳幼児例が多くなっています。有明・水俣・菊池からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数5件(前月比0.7、前年同月比0.2)でした。昨年の9月以降は毎月20件以下の少数で推移しています。菊池・山鹿地区から、0～6歳台の報告です。
8. 突発性発疹 : 報告数128件(前月比0.9、前年同月比0.9)でした。昨年と同様の推移です。9割以上は6ヶ月から1歳台に集中していますが、10-14歳での報告も1件ありました。
9. 百日咳 : 報告数1件(前月比0.3、前年同月比—)でした。水俣地区から1歳児の報告です。
10. ヘルパンギーナ : 報告数767件(前月比0.8、前年同月比3.1)でした。7月のピークから減少に転じましたが、過去2年間の同月よりも高い値が続いています。1～2歳児を中心に乳幼児が大多数を占めます。宇城・山鹿・天草・菊池地区からの報告が多いようです。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数82件(前月比1.4、前年同月比0.2)でした。1月から減少傾向が続いていましたが、8月は増加に転じました。水俣地区からの報告が目立ちます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数 40 歳代 1 件、熊本からの報告です。(前月比 1.0、前年同月一)。
2. 流行性角結膜炎： 75 件(前月比 1.3、前年同月 2.4)と増加しています。熊本 71 件、菊池 2 件、有明 2 件の報告です。年齢別では 15~49 歳にピークがありますが、60 歳台にも多数の発症がみられ、1~3 歳の乳幼児層にも注意が必要です。

STD 定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：
報告数 59 件(前月比 1.3、前年比 1.0)で、前月比は増加、前年比はほぼ同数でした。男女別は、女性に 31 件と多く見られました。年齢別は、男性は 20~24 歳に 9 件と多く、女性は 15~24 歳に 20 件と多く見られています。地区別は、熊本が 46 件と圧倒的に多く、次いで御船 8 件、有明 2 件、八代、宇城、天草に各 1 件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 16 件(前月比 2.0、前年比 0.8)で前月比は増加、前年比は減少しています。男女別は、女性に 10 件と多く見られました。年齢別は、男性は 30~64 歳、女性も 20~70 歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が 8 件と多く、次いで菊池、八代に各 3 件、御船、宇城に各 1 件でした。
3. 尖圭コンジローマ：
報告数 16 件(前月比 5.3、前年比 1.8)で、前月比、前年比とも著明に増加しています。男女別は、男性に 12 件と多く見られました。年齢別は、男性の 25~29 歳に 4 件と多く、女性は 20~24 歳に 2 件、35~39 歳、45~49 歳に各 1 件見られました。地区別は、熊本 13 件、御船、八代、宇城に各 1 件でした。
4. 淋菌感染症：
報告数 20 件(前月比 1.1、前年比 1.1)で、前月比、前年比とも僅かに増加しています。男女別は、男性が 13 件と多く見られました。年齢別は、男性は 20~24 歳に 6 件と多く、女性は 20~24 歳に 5 件と多く見られました。地区別は、熊本 17 件と多く、次いで宇城 2 件、御船 1 件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数 18 件(前月比 1.3、前年同月比 1.4)でやや増加しました。年齢別では、0 歳 1 件、70 歳以上が 13 件(72%)でした。地域別では、熊本 10 件、人吉 2 件、八代 2 件、有明 2 件と多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数 2 件(前月比 0.5、前年同月比 0.3)で減少傾向でした。すべて 70 歳以上でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数 0 件(前月、前年同月から増減なし)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数 0 件(前月 -1、前年同月 -1)でした。6 月からの減少傾向が続いています。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数8件（前月比 1.6、前年同月比 1.1）でした。5-8月よりやや増加しました。地域別では、熊本10件、人吉2件、八代2件、有明2件と多くなっています。年齢別では、0歳1件、5-9歳2件、10-14歳1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数5件（前月比 0.8、前年同月比 0.1）でした。昨年同月と比べより大きく減り、持続しています。年齢別では、1-4歳1件、15-19歳3件でした。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月 -1、前年同月 -1）でした。ここ1年で1件の報告と減少しています。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数1件（前比月 0.2、前年同月比 +1）で4月にピークとなりその後減少しています。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	31件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： 重症熱性血小板減少症候群	1件
	デング熱	1件
5類感染症	： 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
	梅毒	14件